

## 階層別選択研修（共同）

| 研修名                        | 中級【コミュニケーション分野】   | おすすめポイント  |  |
|----------------------------|---|---|--|
|                            | <b>ダイバーシティ<br/>コミュニケーション</b><br>～外国人、LGBTQ、障害者等<br>すべての人々との共生社会のために～  | 価値観の多様化が進み、自分の“当たり前”だけでは住民ニーズへの対応が難しくなっています。また、異なる価値観への理解が不十分だと誤解につながる場合があります。本研修では、多様な価値観の方々との相互理解のため、住民対応だけでなく施策や職場でも活用できる知識を習得します。 |  |
| 講師                         | 一般財団法人ダイバーシティ研究所<br>代表理事 <small>たむら たろう</small> 田村 太郎   | 期 間   | 各所属・各団体で指定する期間   |
|                            |   | 会 場   | 各所属・各団体で指定する場所   |
|                            |   | 予 定 人 員   | 県100人・市町村100人  |
| ねらい                        | ダイバーシティの意義と外国人、LGBTQ、障害者等をはじめとした方々の多様な価値観について理解を深め、共生社会におけるコミュニケーションについて学びます。   |   |  |
| 対象者                        | 【県】 次のいずれかに該当する職員<br>・平成31年4月1日以前に採用された主事・技師・主任級の職員<br>・令和3年4月1日以前に採用された主事・技師・主任級の職員で、令和4年4月1日現在25歳以上の職員<br>【市町村】 主任級以下の職員<br>なお、上記以外で受講を希望する職員については、職位を問わず対象者とする。<br>ただし、応募者が多数の場合は、主事・技師・主任級の職員を優先する。 |   |  |
| 実施日                        | 各所属・各団体で指定する日   |   |  |
| 手法                         | 動画研修  |   |  |
| 学 習 計 画                    |   |   |  |
| カリキュラム                     | 動画時間数   |   | 内 容  |
|                            | 時   | 分   |  |
| 「ちがい」に寛容な社会が求められる理由        | 3   | 00  | ・「ダイバーシティ」とは？<br>・持続可能な社会の形成とダイバーシティ                               |
| 地域におけるダイバーシティ推進の意義         |   |   | ・持続可能な地域づくりとダイバーシティ<br>・「排除」から「包摂」への転換をめざして<br>・多様な担い手が活躍できる地域の重要性 |
| 知っておきたい分野別の取り組み            |   |   | ・障害者／セクシャルマイノリティ(LGBTQ)／多文化共生                                      |
| ダイバーシティに配慮した住民施策とコミュニケーション |   |   | ・住民施策におけるポイント<br>・コミュニケーションにおけるポイント、手法                             |
| 組織におけるダイバーシティ推進の意義         |   |   | ・持続可能な組織づくりとダイバーシティ推進<br>・ダイバーシティ推進のための3つの視点                       |
| ダイバーシティを活かした組織運営の方法と課題     |   |   | ・「2つの誤解」と求められる「3つの多様性」<br>・異文化理解とコミュニケーションの視点<br>・行政に期待される3つの側面    |
| 備 考                        | ・県職員と市町村職員との共同研修（市町村研修コード NO.126）<br>・事前課題、事後課題と研修効果確認レポートがあります。<br>・県職員：人事委員会事務局が実施する主査級昇任試験の受験要件となる選択研修です。  |   |  |